

円熟の技巧、奥深いチェロの響き...

堤 剛 チェロ・リサイタル

チェロ界の重鎮が贈る味わい深い名曲の数々...

【プログラム】

- ベートーヴェン/
モーツァルト《魔笛》の
〈恋を知る男たちは〉の主題による
7つの変奏曲 変木長調 WoO.46
- ブラームス/
チェロ・ソナタ第1番 ホ短調 Op. 38
- ドビュッシー/
チェロ・ソナタ 二短調
- バルトーク/
ラブソディ第1番 BB 94b
(チェロとピアノ編)
- 三善 晃/
母と子のための音楽
1. 甘い、子守歌、愛
2. 慰め、優しい、やわらぎ
3. 思い出、悲しい、癒し
4. お話、幻想
5. さわやか、目覚める
- カサド/
愛の言葉
※曲目は都合により変更される場合があります。

写真・K. Miura

日本が世界に誇るチェロの巨匠、堤剛。サントリールホール館長の重責を担いつつ長年の演奏活動により生まれる円熟の技巧と音楽性、奥深いチェロの魅力を感じ取り堪能できる最もスペシヤルなコンサートです。

ピアノ・須関裕子



ハーモニーホール座間・大ホール

046(255)1100 ※小田急線「相武台前」駅下車 徒歩15分

●7月14日(日) 15:00開演 (14:30開場)

●全席指定

3,800円 (車イス専用席 2,000円)

※未就学児入場不可。車イス専用席の販売は会館窓口のみ。

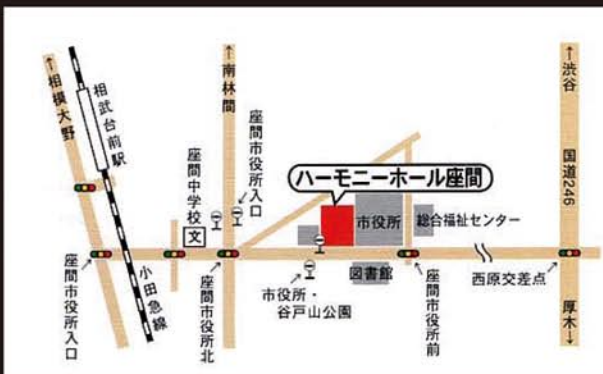
●4月12日(金) 発売 ※発売初日1人4枚まで。

●お問い合わせ

ハーモニーホール座間 046(255)1100

○主催：(有)ハルモニアハウス/(財)座間市スポーツ・文化振興財団

○協力：KAJIMOTO



◆◆チケット販売◆◆

ハーモニーホール座間 (市役所隣)	046 (255) 1100
チケットぴあ	0570 (02) 9999
ローソンチケット	0570 (000) 777
CNプレイガイド	0570 (08) 9999
e+(イープラス)	http://eplus.jp/ (パソコン・携帯)
明和堂書店 (南林間駅前)	046 (276) 2220
熊切商店 (座間駅前)	046 (251) 0006
あつぎミュージックドリーム (本厚木)	046 (297) 3933
サイトウカメラ (大和駅前)	046 (200) 5001
三協フォトサービス (小田急相模原)	042 (742) 8917
リワード ワカバヤシ (座間駅前下)	046 (251) 0040
東京新聞ショッパー (町田)	042 (725) 5997

堤 剛 (チェロ) Tsuyoshi Tsutsumi, Violoncello

名実ともに日本を代表するチェリスト。

幼少から父に手ほどきを受け、1950年に8歳で第1回リサイタルを開いた。桐朋学園子供のための音楽教室、桐朋学園高校音楽科を通じ齋藤秀雄に師事し、1956年に文化放送賞、翌1957年に第26回日本音楽コンクール第1位および特賞を受賞。1960年にはN響海外演奏旅行にソリストとして同行して欧米各地で協演し大絶賛された。

1961年アメリカ・インディアナ大学に留学し、ヤーノシュ・シュタルケルに師事。1963年よりシュタルケル教授の助手を務める。同年ミュンヘン国際コンクールで第2位、ブダペストでのカザルス国際コンクールで第1位入賞を果たし、以後内外での本格的な活動を開始。

現在に至るまで、日本、北米、ヨーロッパ各地、オーストラリア、中南米など世界各地で定期的に招かれ、オーケストラとの共演、リサイタルを行っている。

共演した主なオーケストラには、ボストン響、アメリカ響、モントリオール響、バンクーバー響、トロント響、ロンドン・フィルハーモニア管、スイス・ロマンド管、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管、ウィーン響、ドレスデン・フィル、チェコ・フィル、ブラハ響、ローマ・サンタチェチーリア管など、枚挙に暇がない。

また、日本のオーケストラの海外公演にもしばしばソリストとして選ばれ、1974年新日本フィル世界演奏旅行、1984年東京フィルのヨーロッパ公演、1986年N響のニューヨーク公演に同行した。

1991年から2011年までの20年にわたり、竹澤恭子、豊嶋泰嗣らと共にサントリーホールで結成された、“フェスティバル・ソロイスト”においては、毎年内外から多彩なソリストを招いて室内楽コンサートを開催、室内楽演奏会という形態における一つの時代を創った。また、“堤剛プロデュース”と題するリサイタルシリーズも毎年開催、チェロの様々な魅力を意欲的なプログラミングを通して紹介するシリーズとして注目を集めている。

そのほか、パリでのロストロポーヴィチ国際チェロコンクール、ミュンヘン国際コンクールなど多くの国際コンクールの審査にもしばしば招かれている。

これまでに受賞した主な賞としては、『1992年度日本芸術院賞』をはじめ、1971年《バッハ無伴奏チェロ組曲》全曲連続演奏会、シュタルケルとの共演、日本音楽の紹介などの目ざましい活動と成果に対して贈られた『第2回サントリー音楽賞』、1973年ブリュッセルの“ウジェーヌ・イザイ財団”より作品への優れた解釈に対して贈られた『ウジェーヌ・イザイ・メダル』、1974年“ニッポン放送新日鉄コンサート”のために録音した、三善晃の協奏曲演奏に対して贈られた『芸術祭放送大賞』、1987年『第7回有馬賞』及び『モービル賞』、1992年日本芸術院賞、1997年のサントリーホール堤剛プロデュース公演で現代日本の作曲家たちを取り上げた成果による『1998年中島健蔵音楽賞』などがある。2009年秋の紫綬褒章を受章。また同年、天皇陛下御在位二十年記念式典にて御前演奏を行った。

2012年は、アムステルダム・チェロ・ピエンナーレにおいて全曲邦人作品の演奏を手掛け、2013年は、みなとみらいホールでのJ.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲全曲演奏会を行うなど、益々精力的に活動の場を広げている。

レコード録音における活躍も目ざましく、《バッハ無伴奏チェロ組曲全6曲》で1970年度芸術祭優秀賞を、《ベートーヴェン・チェロ・ソナタ全集》で、1980年度レコードアカデミー賞および芸術祭優秀賞を受賞した。2009年には満を持しての再録音となる、「バッハ：無伴奏チェロ組曲（全曲）」が、2010年には、演奏活動60周年記念盤「アンコール」、2012年には最新作「オリオン」（ともにマイスターミュージック）がリリースされ、絶賛を浴びている。

2001年より霧島国際音楽祭音楽監督。1988年秋より2006年春までインディアナ大学の教授を務め、2004年4月から2013年3月まで9年の長きにわたり桐朋学園大学学長を務めた。2007年9月、サントリーホール館長に就任。日本芸術院会員。



須関 裕子 (ピアノ) Hiroko Suseki, Piano

桐朋女子高等学校音楽科2年在学中に、第2回チェルニーニステファンスカ国際ピアノコンクールにて第1位、併せてステファンスカ賞、遠藤郁子賞受賞。翌年、クラクフ、シヨバンの生家などポーランド各地でリサイタルを行う。第18回園田高弘賞ピアノコンクール第3位。第16回宝塚ベガ音楽コンクール第1位。ドイツで行われた第3回国際室内楽アカデミーにてグランプリを受賞。

桐朋学園大学音楽学部を卒業。卒業演奏会、新人演奏会等に出演。同研究科を首席修了。野平一郎氏プロデュース「ピアノ伴奏法講座」2008～2010年度受講生、修了演奏会に出演。NHK-FM「名曲リサイタル」に出演。

ソロ活動のほか、アンサンブル奏者として国内外の多くの演奏家の信望も厚く、堤剛氏との数多くのリサイタル、2012年リリースCD「ORION」(レコード芸術誌特選盤)での同氏との共演、サントリーホール チェンバーミュージック・ガーデンなどでも活躍。これまでに穉吉慶子、寺西昭子、ミハイル・ヴォスクレセンスキー、野平多美の各氏に師事。

桐朋女子高等学校・桐朋学園大学非常勤講師(ナンバリズミック)、尚美学園大学演奏助手。